

ティアニー先生のベスト・パール

ローレンス・ティアニー 著

松村正巳 訳

＜書評者＞ 岩田健太郎（神戸大学病院教授・感染症内科）

まず本書を開いたとき、「字が少ないな」と思ってはならない。

近年、医療情報量は爆発的に増加した。ウェブ上コンテンツの充実により、1疾患の解説を「5,000字以内にまとめて」という制約はもはやない。そこで「うちのはこんなにコンテンツがありまっせ」という量的評価が行われるようになる。「この教材には〇〇のことがカバーされていない」という形でコンテンツはけなされるようになる。

しかし、パール集のようなコンテンツには量的評価はなじまない。

われわれは芭蕉の句集や島田ゆかの絵本、茨木のり子の詩集を開いて「字が少ない」とけなさない。

「そういうもの」だからである。句集や絵本や詩集は字の多寡で評価されるものではない。そういう量的評価しか書物に求めることができない人は、東京都の電話帳でも読めばよいのだ。

パールは、とりわけ優れたパールは、搾り取った果実の一番美しい一滴である。パールが盛りだくさん、というのは形容矛盾であり、ときどき回診時にポロリと（そしてズバリと）「50歳以上の患者で多発性硬化症を診断したら、真の診断はほかにある」と上級医の口から放たれたとき、パール（真珠）は美しく輝くのである。毎日大量に繰り返されるステイトメントはパールとは呼ばない。それはときに陳腐ですら、ある（「入院患者

には必ずレントゲンと心電図とっておけよ」）。

本書は、ポケットマニュアルのようにセカセカとスピーディーに開く本ではない。穏やかな心持ちのときにゆっくりと読むのがよい。リズムカルに英文を読んでみるのも楽しい。声に出して読めばなお楽しい。Defined properly, dysphagia is one of the few symptoms in medicine for which an anatomic correlation nearly always present; too often it is this disease. (On Esophageal Cancer)。そして、箴言の重みは臨床経験の蓄積とともに、実際の患者と照らし合わせてさらに光を増す。5年後、10年後に読み直すとさらにその輝きが増しているはずだ。優れたワインのように。

●A5 頁146 2011年
定価 2,625 円
(本体 2,500 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01465-6]
医学書院 刊